

第4回長浜市産業文化交流拠点整備検討会議での意見【まとめ】

(順不同)

「公民館・市民活躍スペース」に関する意見

・共結スペースはあくまでも共有スペースであって、公民館・市民活躍スペースとはまた違うのではないかな。施設全体のなかで共有すべきものなので、意味が全く違うのではないかな。

・公民館・市民活躍スペースが平時の賑わい創出として理解し共感するが、非常時には共結という造語の意味合いによって、災害時の対応がフレキシブルにできる機能として自由度を高めてもらいたい。

・共結という言い方は大きすぎる。公民館・市民活躍スペースのほうが使いやすいし、入りやすい。

・「公民館」という名称を持ってくることで、従来の活動が継続していけると理解できる表現にしてもらえた。今後はイメージを共有することが必要。

・市民が活動することに視点を置くことは大切だと思う。活躍する場をどう提供するかがこの建物の大きな意味合い。

・中央図書館や産業支援機能のオール長浜の事業と、長浜公民館という地域の方が活動できる場をどう棲み分けするか。コンパクトにならざるを得ない部分もあるが、知恵やハイテクノロジーを駆使しながらよいものを造っていくなかで、公民館のイメージ図に違和感がある。

・限られた面積のなかで、複合施設となった場合に、なるべくムラのないようにするのが基本。

維持管理運営費に関する意見

・貸館時に、行政からお金を出す発想だけではためなので、ある程度は利用者が受託者負担しながら、収入確保できる部分を確保して、切り詰められる運営費は切り詰めていく判断をするようにしておかないといけない。

計画全体に関する意見

・28年4月から介護保険法の改正により、介護予防分野の事業が一般施策に変わる。市から委託を受け、生活支援コーディネーターが4～5人増える。今後のしょうがい相談支援事業等を想定すると、さらに職員が増える可能性もある。地域の高齢者の生活支援を行うのに、増員要素も加味してほしい。

・産業文化交流というつながりがあるように、産業は貴重な原動力だと思っている。面積も大事かと思うが、出来上がった形で判断されるので、しっかり抑えておかないといけない。

・市民活動やNPOだけでなく社協やコミュニティビジネス、産業支援に関わること等、複合的な問題の相談があるが、こういう拠点ができると、新しい知、創造が生まれることを期待している。

・どう運営し稼働させていくかが大事になってくる。新しい建物ができ、よいものができると思うが、せっかくよいものできてきてもきちんと稼働し、多くの人に利用してもらって、賑やかで活発な施設になることが重要。

・建物をコーディネートする力のある人材がないとこの施設の機能をうまく持たせることは難しい。動きやすく流動的に使えるものにさえしてもらえればいい。

・使う人が命を吹きこみ、生きている施設にしてほしい。

・市民からすれば、行きやすい、入りやすい、利用しやすいが一番。みんなが行くようになり、シンボリックな建物になるのではないかな。市民が行きやすく、使いやすいものにしてほしい。

・敷地Bにバス乗降所があってもいいと思っていたが、敷地Aに配置するなら観光客がここに降ろされた意味があるような場所にしていきたい。